

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和3年(2021年)10月発行

通算198号

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

202111月号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

熊本地域医療センター	
開院40周年を迎えて	P 1
熊本地域医療センター医師会病院	
開設40周年おめでとうございます	P 2
熊本地域医療センター	
開院40周年に寄せて	P 2~3
開院の頃の思い出	P 3
内視鏡室のあの頃	P 4



熊本地域医療センター開院40周年を迎えて

さがら かつ ろう
相 良 勝 郎

このたびは熊本地域医療センター開院40周年を迎えるにあたって関係各位の方々に心からお祝い申し上げます。

小生は開院されて6年目の昭和62年5月から内科に赴任し、平成22年3月まで約20年間勤務し、その後10年間は顧問として外来診療に関わりました。従って、この期間におけるでき事を中心に言及することをお許しいただきたい。

赴任当初、院長は熊本市医師会長、副院長は医師会副会長で、常勤では金子輝夫先生が第二副院長、外科の池田恒紀先生が診療部長で、八木泰志先生、林田信夫先生、稲吉厚先生などの外科医を中心に麻酔科林田裕子部長のもと、消化器疾患、呼吸器疾患、甲状腺や乳腺などの手術が、眼科や泌尿器科の会員の先生方を含めて年間3000例を超えていました。内視鏡部では服部正裕先生、山邊博先生、明石隆吉先生たちが内視鏡診断と治療を数多く手掛けていました。その当時、内科の研修医師は、熊大の第一内科、第二内科、第三内科、代謝内科および循環器内科より、合計5名派遣されていました。その中から今では熊大の教授や県内公的医療機関の院長など要職を勤めておられる先生がおられ、頼もしい限りです。

呼吸器内科では、千場博先生を中心に主に肺がんの診断と治療の確立に努め、多数の症例を重ねています。

このほかいわゆるパソコンの2000年問題があり、暦が2000年を迎える際に各種の医療機器が誤作動を来して患者さんに不利益をもたらす可能性が危惧されました。平成11年(1999年)12月31日に各部門の責任者は23時ごろから現場に待機してアラームがならないか非常に緊張し、その後何事も無く新年を迎えたことがあり、今となっては懐かしい思い出です。

一方、小児の初期救急医療において後藤善隆先生が尽力され、医師会員や熊大小児科医局医師の協力を得て熊本方式といわれる小児休日夜間救急体制が現在でも維持されており、誇るべきことと思います。

ところで、当センターの本館の老朽化に伴う新築が代議員会にて決まってはいますが、まだ細部が決まっていないようです。昨年からの新型コロナ禍も重なり、着手の遅れを懸念しています。現在従事している職員方のモチベーションを維持することが出来るのか心配しています。どうか叡智を結集してステップアップされることを祈念しております。



熊本地域医療センター医師会病院開設 40周年おめでとうございます

顧問 ^や八 ^ぎ木 ^{やす}康 ^し志

熊本地域医療センター医師会病院開設40周年誠に
おめでとうございます。病院の設立意義や目的につ
いては執行部の先生方が詳しく述べられると思いま
すので、私は勤務時代と退職後に感じていることに
ついて述べてみたいと思います。

私は昭和60年（1985）40歳の時、外科医として勤
務をはじめました。当時、外科のトップは池田恒紀
先生で診療全体を統括されておりました。当時の私
は外科医としては名ばかりで、先生に一からご指導
いただき、やっと外科医ですと言えるようになりました。
先生の薫陶の賜物と感謝しています。また当時
は入院患者さんが多く、いかに早くベッドを空け
るかが大きな問題で、会員の先生にお願いし、早期
に転院していただくのが日常でした。大変な日々で
したが今はなつかしく思い出されます。

もはや外科医として勤務して、随分時がたってし
まいました。最近の外科治療は大きく変わりました。
驚きを感じていることが二つあります。一つは鏡視
下手術の発展です。私が現役の時は開腹手術が基本
で、腹腔鏡下胆のう摘出術が始まったくらいでした。
その後の鏡視下手術の進歩は凄まじく、胃切除（進
行胃癌は除く）大腸癌、アッペ、ヘルニア、肝切除
まで、まず鏡視下手術で始まるという過言ではな
い状態です。勿論、鏡視下手術は手術時間が長くな
ります。（当時の我々の共通認識では、手術時間を
短くすることが患者さんの負担を軽くすると信じて
いました。）しかしながら、鏡視下手術は麻酔の進
歩、薬剤の開発もあり、小切開による侵襲の低下、

早期の術後回復につながり、予後に及ぼすこともな
いなど、今後更に発展していくことでしょう。そし
て、我々老兵が「そんな事も出来るの」と驚くこと
になると思われま。二つ目は癌の告知です。「説
明と同意」のことです。勤務しはじめた当時、患者
さんご本人には行わず、必ずご家族に最初に説明し
たものでした。患者さんご本人にはほかした説明を
し手術をしていました。時代の流れと共に「説明と
同意」が重要視されるようになり、真実をお話し、
手術を受けてもらうことが基本となりました。昔は
患者さんの精神的な負担を慮って告知ができなかつ
たと思いますが、現在の複雑で長時間かかる場合も
ある治療では、「説明と同意」がなければ悪性疾患
の治療は困難だと思われま。このように、昔と変
わった事もありますが変わらず根底にあり続けている
ことは一人でも多くの患者さんの命を救う事、そ
して元気になって退院していかれることを願うこと
は少しも変わりません。そのためにも最新の医療を
提供し続ける医療機関であってほしいと願っていま
す。

さて、現在の本館は築40年で老朽化が目立つこの
ごろです。修理を繰り返す、なんとか持ちこたえて
いますが、早晚限界がくるものと思われま。現在
のコロナ禍の状況では早期の建設開拓は望めないか
もしれません。しかし、医師会病院の発展には新病
院の建設が必須です。

最後になりましたが、医師会病院の今後の益々
のご発展をお祈り申し上げます。



熊本地域医療センター開院40周年に寄せて

くまもと乳癌・胃腸外科病院 ^{いな}稲 ^{よし}吉 ^{あつし}厚

新型コロナウイルス感染の新規
患者数は減少傾向が見られるもの
のいまだ終息の気配はなく、医師会の先生方は不安
を抱えながら日々の診療に当たられていることと存
じます。

熊本地域医療センターは今年11月に開院40周年を
迎えられるということで、私が30年間お世話にな
った熊本地域医療センター医師会病院の開設当時の思
い出を外科の立場から少し書かせていただきたいと
思います。

熊本地域医療センター医師会病院は昭和56年11月に開院し、最初に赴任されたのは旧熊本大学第一外科の先輩である山崎謙治先生（現：ヤマサキ胃腸科クリニック院長）でした。その1か月遅れで旧熊本大学第二外科出身の（故）池田恒紀先生が赴任され、当時としては珍しい第一外科と第二外科の混成チームがスタートしました。私は、昭和57年4月に医師会病院に赴任し30年間お世話になりました。医師会病院開設当時は外科手術を積極的に行うことは考慮されておらず、外来の片隅に小さな手術室が1室あったのみでした。しかし、予想に反して医師会の先生方からは多数の手術症例をご紹介いただき、手術室1室のみでは驚異的な、年間最高の948例の手術を施行しました。池田先生のリーダーシップで病院は順調に業績を伸ばし、個人的には山崎先生から、当時は最先端の門脈合併切除を伴う膵頭十二指腸切除などの肝胆膵外科手術や呼吸器外科手術のご指導を受け、大変感謝しております。昭和62年1月から現在の3室の手術室となり外科スタッフも増え、ピーク時には年間1600例を超える手術が行われました。緊急手術も多く、外科スタッフは手術に明け暮れる毎日でしたが、私も30年間で多数の症例を経験させていただきました。

医師会病院は、開設当時から医師会の先生方との

共同利用施設でお互いに顔の見える関係を持つことができ、多くの患者さんをご紹介いただきました。しかし、最近においては、いずれの公的病院も医師会病院と同様に医師会の先生方との病診連携を深めている状況ですので、私も医師会員がなるべく多くの患者さんをご紹介できるように努力していかねばならないと思っております。私は医師会病院を退職し、くまもと乳腺・胃腸外科病院に勤務していますが、あらためて医師会病院のありがたさを感じております。急患や、当院では対処できない患者さんをお願いしたり、MRI、骨シンチなど、CT以外の画像診断はほとんど医師会病院にお願いしています。また、乳癌患者さんのセンチネルリンパ節生検のためのRI注射も医師会病院で行っており、当院にとって医師会病院はなくてはならない存在です。

廣田先生が院長時代に掲げられた「かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざします。」という熊本地域医療センターの理念は、まさに病院の目指す方向性としてわかりやすく、的を射た言葉だと思います。現在進行している医師会病院の建て替えをなるべく早期に実現していただき、医師会病院がますます発展することを期待しております。



開院の頃の思い出

みやざきひろこ
宮崎寛子

この度、地域医療センター医師会病院40周年記念誌のための原稿依頼を受け私でいいのかしらと思いつつペンを取りました。病院設立から40年、月日の経つのは本当に早いものですね。

当時、私は熊大病院に勤務してまして、市医師会立の病院建設が進められていることも知りませんでした。まして、その病院からお誘いを受け、働くことになるとは夢にも思っていませんでした。ただ、当時病院建設にご尽力された先生方の地域医療に対する大いなる情熱に深く感銘し、私も微力ながら看護部長として加えて頂くことにしました。それ以来、

理想的な手造りの看護をという夢を抱きながらも戸惑うことばかり、開院のための準備期間もわずかに半年、副部長の松本さんと一つの机に向い合い、必死で頑張り乗り越えられたのも二人共まだ若く希望に燃えていたからでしょう。思いどおりにならず辛かったことも今ではなつかしく嬉しい思い出です。

私も高齢者になり、もうすぐ米寿を迎えます。四十年前、地域医療センターの基礎作りに少しでも参加できたこと誇りに思い心から感謝しています。

現在、長く続くコロナ禍の中、大変な御苦勞をされていることでしょう。いつもその事を案じながら一日も早いコロナの終息を祈っております。



内視鏡室のあの頃

きよ ずみ たけ あき
顧問 清 住 雄 昭

昭和57年1月、服部先生が昭和大学藤田力也教授のもとで最先端の研鑽をつまれ初代内視鏡部長として赴任されました。続いて抜群の技量とセンスを備えた山辺先生、明石先生が加わり、更に当時珍しかったのですが専任の内視鏡検査技師3人-淡路、平山、内村氏-手練れのメンバーが揃いました。(何故か皆さん個性的で…)

この間、内視鏡室の拡張、専用の透視室(主にERCP用)、リカバリールームの併設とハード面も充実しました。

上下部消化管、胆膵の診断はもとより、特に治療内視鏡に積極的に取り組み、各種止血術、静脈瘤硬化術、異物除去、ブジー、ポリープ切除、乳頭切開、胆道ドレナージ等々。

加えて緊急症例には夜間休日も常時対応する体制を整えました。

当初から会員の先生方に厚く支持頂き、症例は右肩上がり、5年目には年間7300例に及び、件数、内容共に県内はもとより全国的にもトップレベルの

業績をあげるに至りました。

治療内視鏡には出血、穿孔等のリスクも伴い、そうした際には池田先生以来外科の先生方をはじめ、各科のスタッフにサポート頂き、お陰様で治療を続けることができました。

国内外からの見学、研修にも多数来院され、特にJICA(独立行政法人国際協力機構)から中南米を主に数十人来訪され、研修のみならず、会食、温泉、小旅行とブロークンイングリッシュで交流したのも懐かしく思い出されます、のどかな時代ではありました。(麻雀に少々熱を入れ興奮をかった日系ドクターもいましたが今は母国で活躍されている由です)

服部先生等が礎を築かれた内視鏡室ですが、「最新の診断、特に治療法の導入」「緊急症例に対する24時間対応」この基本方針は今日まで連綿と受け継がれています。これも会員の先生方のご支援、ご協力あってのこととして、今後とも内視鏡室を宜しくお願い致します。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2021年11月22日(月) 19:00~20:00

形式/ハイブリット方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加: ZOOM 会場参加: 2階多目的ルーム

申し込み方法(オンライン参加の場合) / kumamotochiiki@gmail.com

までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前に申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告

『経肛門の内視鏡下マイクロサージェリー(TEM)の選択が極めて有益であった一例』

研修医 佐々木 由加子 医師

②特別講義

『成人アレルギー外来の現況とCOVID-19 Up date』
CC8: 感染対策

呼吸器内科 津村 真介 医師

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311(代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします!

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)
☎096-366-1323

編集後記

T 熊医会報10月号で、柏木明先生が「医師会病院開設の頃」と寄稿されています。併せてご一読いただければ幸いです。

Y 今月は、熊本地域医療センター開設40周年の特集号です。7月号の柏木先生の原稿は、「熊医会報」に転載されていて熊本市以外の熊本県医師会員の先生方にも読まれました。各稿とも新病院建設に触れておられます。計画に弾みがつくことを期待しています。

K 某アイドルグループのメンバーふたりが同日に結婚発表!彼らのファンの娘と私は、以前のライブ映像を観ながら、祝杯をあげました。今度は、当センターの40周年記念日。皆さんとの思い出を語りながらとはいきませんが、お祝いをしようと思っています!

H 熊本地域医療センター開設40周年おめでとうございます。私はまだ数年しか働いていないので、40年という長い歴史を知るいい機会になりました。知らないことばかりでとても勉強になりました。